

# 倉庫・3PL特集



押入れ産業は新ブランド「P i O」の出店を都内で加速 (写真は昨年オープンした水道橋店)

## レンタル収納スペース

首都圏や地方の主要都市を中心とした需要の高まりを受け、レンタル収納スペース市場が拡大傾向にある。レンタル収納の営業拠点数は増加しており、直近では屋内・屋外型合わせ約8500拠点上とみられる。倉庫業が営むトランクルームを含む市場全体に占めるレンタル収納の割合は9割近くとなっている。

屋内型レンタル収納大手のキュラースによると、平成29年の市場規模は屋内・屋外型

合わせ前年比約8%増の546億円。伸びる収納需要を背景に市場拡大は続く見込み。東京五輪が開催される32年には700億円超に成長すると予測する。

圏、札幌、名古屋、福岡などの主要都市で立て続けに新規出店。ライゼやストレージワラス、ストレージ王、京葉物流、東急電鉄、積和不動産といった企業でも、拠点新設・

事業への関心が高まる中、ビルオーナーや投資家向けに事業参入による資産活用提案を進めている。

## 需要高まり拡大継続

### 地方都市でも出店増

キュラースは100億円超投資

各社による出店も加速。キュラースは需要拡大を受け、28、29年の2年間で東京都心部を中心に100億円を超える投資を実施した。今年も都内江戸川区や世田谷区に大型拠点を新設。今後、100店舗体制を目指し、さらなる投資を進める計画だ。「ハローストレンジ」のブランドで事業展開するエリアリンクも近年、首都圏や関西

増床の動きが盛ん。

国内収納ビジネスの草分けである押入れ産業では、本部が顧客対応や店舗設計、運営支援を二元的に行うレンタル収納ブランド「P i O」の展開を積極化している。6月に都内渋谷区で新店舗をオープン。10月上旬には、横浜市都筑区に「P i O センター北店」を開業する。

同社は、関東を中心とした全国の中核都市でP i O店舗の新設を進め、合計の設置室数を1000室にする計画。投資対象としてレンタル収納

屋外型店舗でルール構築を

出店ラッシュが続く一方、業界として店舗設営のルールを整備する動きもある。レンタル収納スペース推進協議会(=RSA)は7月から、施設環境や防犯設備の基準が整っていない屋外型のレンタル

収納スペースについて、安心・安全な店舗設営の基準づくりに着手。分科会での検討を経てマニュアルを作成し、業界全体、国土交通省に働き掛ける方針。RSAが優良施設の証明として付与する「RS推奨マーク」の屋外型版推奨基準も定めていく考え。

レンタル収納を利用する消費者、営業拠点周辺の住民にとって安心・安全なサービス提供を通じ差別化を図ることが、健全な市場拡大の鍵になりそうだ。(水谷 周平)

# 注目の市場動向

## 「もの」づくり、ひとの「暮らし」を支える 東陽倉庫

